

第2回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会会議録（要旨）

- 1 日 時 平成17年4月22日（金）14：00～16：20
- 2 場 所 塩谷広域環境衛生センター3階会議室
- 3 出席者 委員長 西谷弘子（学識経験者）
副委員長 菊地崇雄（さくら市）
委員（矢板市） 長谷川健
（さくら市） 関 忠司、天野順子、蛭田幸子
（塩谷町） 松尾亨子、立岡芳司
（高根沢町） 飯泉八重子、君島 毅
（学識経験者） 小久保行雄
（地元住民代表） 高塩克敏、岡田明
（アドバイザー） 今泉繁良、中村祐司
職員（矢板市） 河野副主幹、高瀬主任
（さくら市） 長島主査
（塩谷町） 狩野課長補佐
（高根沢町） 金澤課長補佐
（塩谷広域行政組合） 高久事務局長、阿久津課長、磯室長、小堀主幹、
印南係長、片野係長、斎藤主任
計27名

4 あいさつ

高久事務局長あいさつ

事務局自己紹介

順次自己紹介

前回欠席委員自己紹介

今泉教授、小久保委員

5 議 題

- (1)ごみ処理施設の現場確認及び(2)ごみ質の確認は、会議開始前に現場にて確認済
(3)ごみ排出量及び処理経費について

事務局説明

（H17ごみ処理に関する統計データPDF版参照）

家庭系及び事業系の可燃ごみは、毎年2～3%ずつ伸びている。

燃やした後の焼却灰は、福島県小野町に埋め立て処分しているものと、小山市の民間業者に熔融骨材として出しているものがある。一般的に、可燃ごみの焼却

量に対し10%が焼却灰と言われている。

最近プラスチック類の搬入が増加しているため、焼却炉内のカロリー（熱量）も上がっており、現在1,880キロカロリーあるが、当該施設の設計カロリーは2,100キロカロリー、標準で1,500キロカロリー、最低で900キロカロリーということで建設した施設で、現在は高い数字になっています。

のようなことから、焼却炉のレンガの材質を積み替えました。

現在、資源びんは益子町のクリスタルクレイに委託している。

（意見）

ごみの全体量として見ると、ここに書いてあるもの以外にペットボトルやカンもあり、それも書かなければいけない。トータルで発生するごみというのは、可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみの足し合わせで、ここに運ばれてくるものはこれ以外に分別されたペットボトルやカンも入ってくる。性質として燃やせるものがあるので、我々がもっと努力すれば数字を減らせる。分別等したごみを売って、運営費にどれくらい組み込めるかということにもなる。

（質問）

飛灰の比率はわかるか？

（回答）

1/4程度です。薬品と水の添加量でも若干変わります。

（意見）

先ほど意見があったように、可燃ごみ処理できるごみの総量に対して可燃しているごみと資源化しているごみに分類した方が、なぜ増えたかなどわかりやすいのではないか。

（質問）

焼却炉補修費の説明をお願いします。

（回答）

14年度の8,100万円というのは、レンガの材質を替えたこと及び施工範囲を広く実施したことによるものです。15年度は前年度以前に戻しました。補修費の主なものはレンガの積み替えです。

（質問1）

焼却炉内が高温になり過ぎたらどうなるのか？また、その際は温度を下げるのか？それともごみを減らすのか？

（質問2）

（それに関連して）塩谷広域環境衛生センター搬入ごみ質の分析結果についてお聞きしたいが、この中のビニール・ゴム皮革合成樹脂類について平成15年度平均で29.1%とあるが、これは今までお話のあったカロリーの熱量の安定の

ため計算に入っているのか？

(回答 1)

高温になると、焼却炉内のレンガを傷め、レンガの寿命を縮める結果となり、ランニングコストが余計にかかります。温度が上がった場合はストーカーを止めてごみを動かさないようにしています。そのため処理量が減るという悪循環になります。

(回答 2)

ルート及び 2 市 2 町の足並みの揃え方が研究段階であり、量的なものや引き取り業者も確立されてないなどということがありますので、現在も検討中でありませう。

(回答 3)

ただし、私は容器包装リサイクルに関わっていますが、回収と保管は行政負担になり、リサイクルの費用よりその費用の方が負担が大きく、行政：業者 = 8 : 2 であり、かなり税金を使ってリサイクルをしないといけないという現状があることだけは理解していただきたい。従って、私どもはそれを改正しようという市民の運動をやっており、もう少しすれば改正されます。現時点では行政負担が多い。プラスチック類をリサイクル類に回すということは可能だと思います。

(4)各市町の排出抑制、資源化・再生利用システム取り組み状況について

(各市町の取り組み状況票 P D F 版参照)

(意見 1)

雑紙が書いていない。危険物を入れる容器のように、雑紙を入れる容器を設定して使えばどうだろうか。

(意見 2)

家庭で分別するのに苦労するのは硬い紙であり、工夫する価値はある。

(意見 3)

葬式のお返して、ビニールの持ち手は雑紙にならないので取らなければならない。

(意見 4)

販売している所に聞いたのだが、中身よりもごみの方が多いということである。これは問題なので、行政の働きかけが必要なのではないか。企業の都合のいいようなものだけではいけない。

(意見 5)

今、減量化・分別・資源化と出たが、具体的にできるようになればいい。

(意見 6)

各家庭で、みかん箱にひもを十字に通して新聞紙を重ねていき、持てる大きさになったらそのままひもを縛り、資源物として出すなど習慣付けると良い。意識付けが必要であり、私も自分の事務所でやっている。

(質問)

さくら市の欄に業者回収とあるが、これはどういったことなのか？

(回答)

業者回収というのは、住民主体の廃品回収等で集まった資源ごみ等について、地域によって出す業者が違うため、市ではなく団体に業者にお願いして出しています。

(質問)

各市町の回収と資料について、各市町の回収項目が増えれば可燃ごみの処理量が減るという解釈で良いか。量と項目の検討をこれからお願いします。

カン・ビン・ペットボトルの回収の行政と業者の兼ね合いは？

(回答)

住民主体の集団回収についてということで、子供会や小・中学校などに補助を出している。それにプラスして子供会等に業者から回収分が入る。

(質問)

塩谷町は業者へ売却となっており、塩谷方式の方が良いのでは？

(回答 1)

確かに業者は買い取ってくれるが、量が足りないと運搬車の車賃の方が高くなり、赤字になってしまう可能性もある。

(回答 2)

高根沢町分として、なぜアルミとビンしか書いてないかというと、実際にはそれ位しか出ていない。アルミは真岡のエスエスメタルに、ビンは地元の酒屋に出している。古紙等あればもちろん業者に出す。他は実績がないので載せなかった。

(まとめ)

塩谷広域行政組合においては将来何 t 処理のものを作るか。7、8年後に新しい処分場を作るのに、現状のものにするのか、あるいは何 t のものにするのか、ということはこの会議で検討していく。